

横浜市立岸谷小学校 学校評価報告書 (平成25年度～平成27年度)

共通取組 重点取組	平成25年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・子ども自らが探求心もち、学び続けることができるよう、身に付ける力を明確にした授業を目指し、研究研修を行う。	・身に付ける力を明確にした分かる授業を目指し、研究研修を行ったことで、授業の課題が明らかになり、授業改善に取り組んでいる。	A ◎ C D
2 豊かな 心	・子ども自身が気づいたことを様々な友だちとのかかわりの中で伝え、実践する場面を保证する。	・人権週間の中で人権トークを実施し、自らの気づきを異学年集団の中で述べ合う場面を設定した。しかし、本音を言いにくいなどの課題もあった。	A B ◎ C D
3 健やかな 体	・基本的な生活習慣を身に付けること、及び「体づくり」「食」の大切さを児童・保護者に発信し、学校と家庭が協力した取り組みを行う。	・体力作りタイムは、「体づくり」を学校生活の中で習慣化する取り組みとして有効であった。「食」については継続して指導を行う必要がある。	A ◎ C D
4 教育課程 学習指導	・算数科を中心とした重点研究を通して、授業力向上に取り組む。 ・他校の授業実践を参観し、自校や自身を振り返る方針を確立する。	・協働的な研究や他校の授業実践を参観することを通して、教師一人ひとりの授業を改善すべき点を明らかにさせて、授業力を向上させている。	A ◎ B C D
5 児童指導	・いじめ防止のために横浜プログラムを定期的実施し、早期発見・早期対応に努める。 ・児童一人ひとりの課題を、各学年や低高学年ブロックで共有する。	・横浜プログラムによって実態の把握はできた。学級全体及び個々に対する組織的な動きの取り組みには不十分さがあった。	A B ◎ C D
6 教育環境 整備	・子どもの学びに適する校内環境を整え、授業を行う。 ・子どもの学びに適した校内環境を整備するために予算執行を行う。	・学びに対する意欲を高めるために、学年や学級の掲示板を利用して、学びの履歴を継続して掲示し、学びに適する環境を整えることができた。	A ◎ B C D
7 生活指導	・あいさつ、靴箱の整理、学習中の姿勢などの指導を学校全体で共通理解して実施する。	・教師と児童が共に取り組み、礼儀正しい朝のあいさつや靴箱の整理など、子どもたちにより習慣が身につけてきた。	A ◎ C D
人材育成 組織運営	・各自の課題を出し合い、授業を見合うことを通して自主的に授業改善に取り組むステップアップPとキャリアアップPを充実させる。	・同じキャリアステージの者が集まり、授業実践を通して、授業を改善するポイントを見つけていくことができた。	A ◎ C D

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	各小学校とも「まち」との繋がりが強く、教科教育活動支援に活用してきた結果、児童がまちを大切にしようとする能動的な行動変容が見られるようになってきた。また、地域文化・行事などの関わりを通して自己有用感や自己肯定感が育ちつつある。中学校も組織的に小学校やまちと関わることで、小学校や地域からのイメージが変わり、中学生の「まち」に対する感覚も変容しつつある。双方の関係が良好になってきている。多くの児童生徒が落ちついて学習や生活をし、自己の力を伸ばそうと努力しているが、課題のある家庭も少なくない。今後は、小中連携だけでなく、関係諸機関との連携を強化しながら家庭への指導・支援を行う必要がある。
学校関係者 評価結果	・授業改善への取組では組織的な取り組みが見られ成果が見られる。 ・あいさつ運動や校内環境整備では、より児童の主体的な取り組みになるように留意して、次年度以降も継続するとよい。 ・中学校ブロックで児童と生徒を育てる思いを共有して取組を進めて欲しい。
評価結果に 対する 学校の見解	・中学校ブロック内での各校の重点取組分野についての情報を中学校ブロック会議等を利用して共有化し、保護者・地域・学校関係者が連携した取組を行う。 ・重点取組の内容が、保護者や地域にも分かるように、情報発信に努力する。

学校経営 中期目標 達成状況	・子どものよりよい学びを目指し、よい授業とよい学習環境を提供するために組織的に取り組みをする基盤ができた。 ・児童の課題や習慣化への取り組み、研究の方向性など多くの情報を全体で共有し、協働的な取り組みを行うことができた。教師全員の意識が高まり、学校全体で取り組もうとする様子が見られるようになってきた。
----------------------	--

共通取組 重点取組	平成26年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・小中間の連携を深め、子ども自らが探求心もち、学び続けることができるよう、身に付ける力を明確にした授業を行う。	・身に付ける力の明確化、適切な児童の実態把握、授業展開等、授業の質を高める観点について共通理解を図り、確かな学力向上につながる授業改善に取り組んだ。	A ◎ C D
2 豊かな 心	・道徳教育、人権教育の年間計画を見直し、他者との関わりの中で、自分を見つめ、他者を理解し、互いに理解し合える心を育成する道徳教育、人権教育を推進する。	・人権月間での人権トーク、低学年での話し合いを実施し、互いに尊重し、認め合うことの大切さについて考えることができた。日々の生活に反映できるようにすることが課題である。	A ◎ C D
3 健やかな 体	・基本的な生活習慣を身に付けること、及び「体づくり」「食」の大切さを児童・保護者に発信し、学校と家庭が協力した取り組みを行う。	・体力づくりタイムや給食週間での計画的な取組により、体づくりや食についての意識が高まりつつある。さらに継続的な指導が必要である。	A ◎ C D
4 教育課程 学習指導	・算数科を中心とした重点研究を通して、授業力向上に取り組む。 ・ステップアップP、キャリアアップP、他校への研究会参加など授業実践、授業参観を通じた授業改善の日常化を図る。	・重点研究を通し、身に付ける力についてのとらえが明確になり、汎用性のある資質、能力を身に付けるための活用場面の設定など、授業の質を高める方向性の共有化が図ることができつつある。	A ◎ B C D
5 児童指導	・児童一人ひとりの課題を各学年、ブロックで共有し組織的に対応する。 ・いじめ防止のために横浜プログラムを活用し、いじめの予防、早期発見、早期対応に努める。	・YPによる児童の実態把握や、学年研、職員会議等における児童の課題についての職員間の共有が図れた。岸谷スタンダード等、組織的な指導体制に課題がある。	A B ◎ C D
6 教育環境 整備	・校内美化、学びの履歴の掲示などにより教育環境を整える。 ・環境整備についての重点項目を設定し予算執行することで教育効果の向上を図る。	・環境整備について、予算の重点項目を設定し、計画的に予算執行することで環境整備の充実が図れた。 ・学びの履歴を掲示について学級、学年で常態化し、質的な水準も向上しつつある。	A ◎ C D
7 生活指導	・生活目標と「岸谷あいさつ」を関連付け、重点項目を設定することを通して、日常生活の改善について教職員が共通理解し組織的に指導する。	・生活目標についてあいさつを重点項目に設定し、年間を通して継続的に指導し、あいさつが習慣化されつつある。校外でのあいさつもしっかりとできるよう継続的指導が必要。	A ◎ C D
人材育成 組織運営	・学年研、ブロック研、ステップアップP、キャリアアップP等の充実により各キャリアステージにおける教職員間の連携を深め組織改善に取り組む。	・学年研や重点研の取組の中で、異なるキャリアステージの教職員間での連携が深められ、各々のキャリアアップにつながられている。	A ◎ C D

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	・小中連携活動を通して児童・生徒間の交流も深まり、教師間の児童・生徒に関する情報共有化が図れたことで落ち着いた学校生活を送っている児童・生徒の姿が多く見られるようになった。また、小中9年間の学習の流れやユニバーサルデザインを意識した学習観を共有したことで学習面でも小中の接続がスムーズに行えるようになった。 ・地域行事、小中連携の活動を通じて自己有用感や自己肯定感が高まり、「まち」への愛着をもって活動に関わる姿が多く見られるようになった。
学校関係者 評価結果	・資質能力を育む授業力向上の取組により、授業力は向上しつつあると考えられる。児童指導、生活指導、環境整備の取組など、継続的に取り組めており、学校に落ち着きがある。子どもや学校の変容をどのようにとらえるか、評価方法を検討し、評価結果の検証をするべき。
評価結果に 対する 学校の見解	・主体的発展的に学ぶ姿勢や互いを尊重し合う心を育成していくために、さらに方向性を共有し、質的な高まりを図る組織的な指導が必要である。また評価結果や評価方法の検証が必要である。

学校経営 中期目標 達成状況	・授業力向上の取組、児童指導、生活指導、環境整備の取組など、継続的な取組により子どもたちは落ち着いた学校生活を過ごすことができている。中期目標達成への取組は着実に積み重ねられているが、さらに指導の方向の共有化を図ることから、より組織的な指導へと改善する必要がある。
----------------------	--

共通取組 重点取組	平成27年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・子ども自らが探求心もち、主体的発展的に学び続けることができるよう、身に付ける力を明確にした授業を行う。	・身に付ける力が習得できるような授業展開を検討してきた。学力状況調査の結果より、児童が主体的に学ぼうとする姿勢がうかがえる結果が出ている。	A ◎ C D
2 豊かな 心	・他者との関わりの中で、主体的に自分を見つめ、他者を理解し、互いに理解し合える心を育成する道徳教育、人権教育を推進する。	・「さわやか清掃」「国際平和スピーチ」「人権トーク」など校内の取組活動を通し、主体的に自分を見つめ直すことができ、相手の気持ちや立場考えることができた。	A ◎ C D
3 健やかな 体	・「基本的な生活習慣」「体づくり」「食」の大切さをとらえ、健やかに成長するために必要な取組を子どもが主体的に行えるよう、体力・健康プランの改善を図る。	・「体力づくりタイム」の取組活動を通し、体力づくりに対する意識が高まってきている。「食育」については食育の取組を給食委員会の活動参加児童しか経験していないため、次年度はより多くの児童に広めたい。	A ◎ C D
4 教育課程 学習指導	・児童の実態に即した授業デザインをし、主体的に学ぶ姿勢が定着するよう、教師が授業リフレクションを行い日々の授業力向上に取り組む。	・児童の実態を的確に把握し、身に付ける力を捉えた上で授業デザインを丁寧に進めていくことが大切であるということが実践を通し分かってきた。さらに子どもの実態から授業改善のPDCAサイクルを機能させていきたい。	A ◎ C D
5 児童指導	・横浜プログラムやアセスメントシートを活用し個々の子どもの状況をとらえ、指導の方向性の共有化を図り、個々に寄り添う指導をする。また岸谷スタンダードを活用する。	・「岸谷スタンダード」を基に生活指導を中心に行ってきたがその意義や活用方法についての共通認識が不十分だった。次年度引き続き教師間で共通理解を図っていきたい。	A B ◎ C D
6 教育環境 整備	・子どもが主体的に学ぶ姿勢を身に付けるよう、学びの履歴を掲示することで実際の学習に活用できることもあったがまだ手探り段階なので質の向上を目指したい。 ・環境整備を重点項目として継続し、計画的に執行することで教育効果の継続的な向上を図る。	・学びの履歴を掲示することで実際の学習に活用できることもあったがまだ手探り段階なので質の向上を目指したい。 ・環境整備予算を有効に活用し校内美化に役立てることができた。	A B C D
7 生活指導	・子どもが主体的によりよい生活を築けるように、生活目標を年間で三期に分け、各学級で話し合いながら目標を設定していくなど、生活目標の重点化、意識化を図る。	・各学級でより具体的な生活目標について話し合い明確なめあてを立てることで主体的に実践できるようになってきている。掲示や朝会での取組発表も引き続き行いたい。	A ◎ C D
人材育成 組織運営	・中期学校経営方針及び学校評価を共有し、学年研、ブロック研、ステップUPPなどで授業改善、組織改善に取り組むことを通して、教職員間の連携を深め、キャリアステージに応じたキャリアアップを図る。	・キャリアステージごとに授業づくりや学級指導について学び合うことができた。特に授業を見合うことでそれぞれの経験からの意見交流ができ、個人のキャリアアップにつなげることができた。	A ◎ C D

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	・本年度は授業公開の後、指導部ごとの情報交換を行い、発達段階における指導法の共有に努めた。今年度の成果は、中学生が小学校の運動会や周年行事へのボランティアとして参加。文化スポーツ交流会とあわせて小学生にとってのモデルとなり、中学生の自己優越感の向上につながった。また、新たな課題はあるものの、三年生の卒業期における出身小学校への授業支援も成果をあげている。去年度より始めた小学校宿泊行事への中学校教員の支援は、中一ギャップの解消だけでなく、小学生の発達段階や指導体制を理解する、貴重な体験となった。今後も継続していきたい。中学校教員による小学生への授業は、教員の気付き、学びに大きな成果を与えた。次年度以降は、小学校教員による中学生へ向けた授業を実施予定。
学校関係者 評価結果	・生活指導、環境整備など、継続的な取組が定着してきていると感じられる。特に重点的に取り組んでいる挨拶については、立ち止まって深々と頭を下げている児童が多い。中学になっても継続され繋がっている。豊かな心を育てるための様々な取組活動が児童にとって共感でき、主体的な取組となるように設定して欲しい。
評価結果に 対する 学校の見解	・主体的な学びの姿勢や豊かな心・健やかな体づくり等、家庭や小中の連携をとりながらこれからも充実・向上に向け、実態に応じた指導を丁寧に行っていきたい。生活指導や環境整備については、継続して丁寧に行っていく。

学校経営 中期目標 達成状況	・「教育環境整備」について学びの履歴を残す掲示や環境予算を有効に活用し、児童に最適な教育環境を整えることができた。 ・「教育課程・学習指導」の取組とも密接に関わる「人材育成」に積極的に取り組み、授業を通して教師の授業力向上に役立つ研修の場を多くつくることができた。今後これら児童の学力向上に反映させられるよう、児童の実態をしっかり把握した上で指導力を高めていきたい。
----------------------	--